

民報 ゆうばり

「夕張新鉱大災害35周年を偲び

夕張の花の歌 夕張の未来を語る集い」に80人



夕張新鉱大災害から35年目を迎えた10月16日、清陵町さわやかホールにおいて、『夕張新鉱大災害35周年を偲び、夕張の花の歌を歌い、ふるさと夕張の未来を語る集い』が開催され約80人がつどいました。

夕張新鉱裁判を支援する歌、「ゆうばりの花の歌」を作曲した岡田京子さんのアコーディオンにあわせ、参加者全員で歌い、声をそろえての群読では「…思い出せば 悔しきで休むるえます。あの日地の底に埋められた93人の炭鉱の男たち、いいかげんガス抜き 減らされた救急バルブ… 切られていた警報機の電源 出されなかつた退避命令… ひとりひとりに愛する人かけがいのない命があつたのに…」さらに、犠牲になつた93名の名前が、ひとりひとり読み上げられました。

一カ月も前から異常な兆候が

坑内で働いていた森谷猛さんが当時を振り返り、「一カ月も前から異常な兆候の数々があつたのに、安全よりも出炭することを強要された。



「ふるさと夕張の未来を語る」場面では、市議会議長厚谷司さんが未来への展望を語り、くまがい桂子市議から「炭鉱の閉山後、中田市長は国の責任を主張し、財政再建団体になる

地域を追い詰めたのは国の責任

坑内に取り残された人たちが、まだ生きている可能性もあるのに石炭を守るために、無理やり家族の同意を取り付け、注水を決めたのに結局炭鉱は閉山になつた。」と、生々しく當時を語り、参加者から、「そうだったね」の声も上がりました。

根付いてきた住民自治

ことに強く抵抗した。国や道も財務行政のプロとして赤字隠しに目をつむり、赤字を膨張させた責任の一端があることを、夕張市民以外の方たちにもわかつていた。破綻後の厳しい生活の中で、住民福祉や地域振興にかかわる市の単独事業はすべて廃止され、人口は六千人も減つた。しかし、残つた市民によつて、市民活動が活発になり、産業廃棄物処分場の反対運動でも市民の過半数の署名が集まつた。



と、さらに「清水沢プロジェクト」の佐藤真奈美さんから、炭鉱遺産を活用した街づくりに取り組んでいることの報告がありました。夕張市長のメッセージ紹介後、参加者からは「道東の浜中町から、チリ沖津波の支援のお礼に災害救援物資を運んだことを思いだす。今日は素敵な集いでうれしかった」「下請け労働者の遺体にはムシ口、職員の遺体には

毛布がかけられた。慰霊碑の記名順でも、死んだ後まで差別された」などの発言。さらに、岩見沢から参加した遺族の方からは、「夕張新鉱裁判では、皆さんにお世話になりました。母は高齢で参加できませんでしたが、亡き弟たちを偲ぶ集いに、多くの方が来てくれたことに感謝しています。」とのあいさつがありました。

終了後の交流会で、作曲家の岡田京子さんは、「こうして念願であつた『夕張の花の歌』を夕張のみなさんと歌うことができたことを、うれしく思っています。亡くなつた作詞家永井和子さんも、喜んでくれていると思えます。」とのお話がありました。交流会には、新鉱災害後に生まれた数名の若者も参加し、今後も幅広い層の参加者で、夕張新鉱大災害を風化させず、歌い継ぎ・語り継ぐことをみんな確認しました。



夕張中学校、夕張高校吹奏楽部の児童・生徒のほか、市内音楽協会、加盟のレコード愛好会、リンデンコール、ポール・リラ、コール・ポピー合同合唱、夕張市民吹奏楽団、ゆうばりこのまちソング、ジャクソンさんなどでした。

第59回夕張市音楽発表会開催

10月15日、第59回夕張市音楽発表会がゆうばり文化スポーツセンターで開催されました。出演はユーパロ幼稚園、ゆうばり小学校、夕張中学校、夕張高校吹奏楽部の児童・生徒のほか、市内音楽協会、加盟のレコード愛好会、リンデンコール、ポール・リラ、コール・ポピー合同合唱、夕張市民吹奏楽団、ゆうばりこのまちソング、ジャクソンさんなどでした。



予定どおりのプログラム進行で、最後は全体合唱『さようなら』を歌い閉会しました。

くずさんの夕張歴史散歩(58)



ここからは会社の縄張り
労務連絡所とは聞こえが良いが、通称「見張り」と呼ばれていました。文字どおり見張っていたのです。それは駅前だけではありません。
夕張炭山では、炭鉱地域と通称「市街地」と呼ばれる商店街とは確然と区分けされていて、その境目には「見張り」が設置されていました。(現本町1丁目栄アートの右側)

炭住では指定商だけ

炭鉱支配地には、商店は原則開店できません。炭住で営業を認められるのは、北炭から指定商(一年ごとの契約)として認められた生鮮食料・酒類・日常雑貨・理容店などでした。但し酒類を提供する飲み屋は、ご法度でした。

そして、指定商もまた契約更新が足かせになり、監視見張り役を担わされてきました。

日常の生活まで

もちろん炭住には、要所要所に必ず「見張り」があり巡視とか労務・世話役とか呼ばれますが、日常生活にまで入り込む監視・管理はむしろ露骨でした。

畠山 和也「国会かけある記」
衆議院議員

畠山和也

TPP阻止へ、国会でも野党共闘



国会は「いつからTPP特別委員会の審議を始めるか」で、せめぎあいとなっています。与党は安倍首相の強い意向を受けて早期審議入りをめざしていますが、新大臣への所信聴取と質疑もまだおこなっていないし、輸入米の価格偽装疑惑についても全容解明には遠く、TPPのもとでも「国産米への影響はゼロ」という政府試算も撤回とやり直しが必要です。

委員会を開くには、各党理事による理事会で決定しなければなりません。日本共産党は残念ながらオブザーバー参加のため、民進党との連携が欠かせません。民進党の筆頭理事となったのは、自他ともに認める「反TPPの男」・篠原孝議員。実は国会でいつも「TPP STOP」のネクタイをし続けているのは、私と篠原議員の二人だけなのです。先日も二人で話し合い「今国会での批准は断固阻止」を確認しました。

ところで篠原議員は、私の父親と同じ年。それを伝えると「あなた、そんなに若いのかい」と苦笑しきり。「あなた方(日本共産党)のように、しっかり中身を暴いていかないとダメなんだ」とも話されました。

野党共闘の行方に関心を持たれている方も多いと思いますが、このように議員同士での努力を強めています。何より根本は、力強く大きな国民の世論と運動。くらしも地域も壊すTPPの批准阻止へ、力を合わせましょう。